

6

〈事例1〉

都会の庭でさわやか コンポスト容器の堆肥づくり

住宅地ではとくに、臭いも虫も出たくないもの。コンポスト化容器を使った、さわやか堆肥づくりの例を紹介します（協力：「かわさき生ごみリサイクルの会」の阿部貴紅子さん）

● 「ボカシ和え」で、臭いゼロの 生ごみ保存

生ごみは毎日、ボカシを混ぜた「ボカシ和え」にして密閉容器に保存しておき、これが10ℓほどたまったら、庭のコンポスト化容器に移して堆肥化するという方法です。ボカシは、会員が共同で、米ぬかともみがらくん炭の10：1混合に、糖蜜とタネ菌を添加して、2カ月間発酵させてつくります。

密閉容器で保存するボカシ和えは、嫌気的な条件に置かれます。そのため発酵がゆっくり進み、アンモニアは発生せず、ボカシの作用で漬物の乳酸発酵のような臭いがわずかにする程度です。生ごみをためても悪臭が出ないこと、容器の栓から水抜きして次のコンポスト化容器での好気性発酵に適した前処理ができることなどの効果があります。

● 分解・発酵用と、タネ菌堆肥用の 二つの容器で循環

コンポスト化容器は100ℓ入りを2つ用意し、1つを分解・発酵用に使います。下に微生物が豊富な腐葉土を5ℓ敷き、その上に生ごみボカシ和え（10ℓを目途）および同量の腐葉土を入れて混ぜ合わせ、さらにその上に消臭と結露した水分の吸収のために腐葉土を2ℓかけます。



生ごみをよく水切りする



密閉容器に入れボカシをまぶす



ふたをして密閉保存し、栓で水抜き